

JICA
ボシニア
ディア
千葉

SV ニュース
第 17 号

平成二十四年度定例会日程

日時 十二月一日(土)

十三時（十六時）
引き続き懇親会を予定

会場 千葉市国際交流プラザ

平成二十四年春季公開講演会と総会を開催



講演中の松島正明氏

当会、JICA地球ひろば共催の春季公開講演会が千葉県、千葉市の後援を受けて五月十九日(土)浦安市国際センターで開催されました。

講師の松島正明氏は民間金融機関から独立行政法人国際協力機構(JICA)に入構され、約百か所ある在外事務所職員・専門家・青年海外協力隊・シニアボランティアの安全対策、事務所間のネットワーク作成、地域戦略などを担当されました。

海外事務所に関する業務ではインフラ作成、開発、計画のためのマスタープラン調査などで活躍され、また現地活動ではバングラディッシュに赴任、アフガニスタンやイラクでは事務所新設を担当し昨年十一月に帰国されました。

講演はJICAボランテイア事業の概況、取り組みべき課題、既存制度の見直しと新しい取り組み、について丁寧

海外事務所に関する業務で



講演会会場全景

に詳しく、かつ、日本の将来を託する若者に対する期待を込めて述べられました。

ご講演内容については二、三面に掲載してありますのでご覧ください。

公開講演会に引き続き、当
会平成二十四年度通常総会が
開催されました。

司会の後藤副会長が、出席
会員二十九名、委任状提出会
員四十二名で総会が成立する
旨の報告を行い、ついで開会
宣言と来賓紹介に移りまし
た。

山本会長の挨拶に引き続き、来賓のJICA 青年海外協力隊事務局審議役 松島正明氏、千葉県総合企画部国際課副主査 宮崎順紀氏、青年海外協力隊千葉OB会会長および千葉県海外協力隊を育てる会理事 浜田眞一氏、浦安市国際センターセンター長 藤松理子氏からの自己紹介とご挨拶を頂きました。

総会の議事詳細については
三面をご参照ください。
終了後近隣の「四季菜々」に
て懇親会が開かれ、旧交を温
めながら相互の情報交換が行
われました。



森田知事とエルバーズ市長

森田健作千葉県知事は、二〇〇五年から経済、文化、スポーツ、学問など様々な分野において交流を行っているデュッセルドルフ市を六月に訪問しました。

六月一日（金）に同市庁舎で行われたエルバース市長との面談の場で、知事はデュッセルドルフ市による東日本大震災へのお見舞いや支援に対してお礼を述べました。

知事のドイツ訪問で深まる交流

千葉県総合企画部国際課

理研究会が出席者に「太巻さずし」を振る舞うとともに、県内のジャズミュージシャンである大原保人さんがピアノの演奏を披露しました。

翌二日（土）、森田健作知事は同市で開催された日本を紹介するイベント、「日本デー」に参加し、開会式で千葉県の魅力とポテンシャルをアピールしました。

会場内に設置された千葉県PRブースには、本県から参加した千葉県日独協会のメンバーも応援に駆け付け、数多くの

デュッセルドルフ市民が千葉県の文化、観光等を紹介する展示に足を止め、折り紙実演や甲冑試着体験を楽しむ展示、クイズなどで終日賑わいました。ブース前では、千葉県の郷土芸能である佐原囃子奏者による篠笛演奏も披露されました。

今後とも千葉県では、民間主体の交流が一層活発になるよう取り組んでいきたいと考えています。

また、知事と市長との間で、今後交流をさらに発展させていくことで意見が一致し、確認書が交わされました。

同日、在デュッセルドルフ日本国総領事公邸において、同総領事館との共催で、現地交流会を開催しました。交流会には、デュッセルドルフ市や日本企業・日本人団体など現地の関係者に加え、千葉県からの民間訪問団など約八十人が出席し、交流を深めました。会場では、本県から参加した千葉伝統郷土料



終日にぎわう千葉県PRブース

事業の現況

JICAボランティア事業の派遣者数は、本年三月末時点で青年海外協力隊、シニア海外ボランティア及び日系社会青年・シニアの合計で約二千八百名であり、事業開始以来の累計派遣者数も約四万三千人となっている。昭和四十年に開始された青年海外協力隊は、来る二〇一五年に発足五十周年を迎え、本事業が千葉県JICAシニアボランティアの会をはじめ、多くの国民の皆様からご理解とご支援を頂いていることにあらためて感謝。

左表は本年三月末現在のJICAボランティア派遣状況である。

2012年3月末現在の派遣状況			
青年海外協力隊	74か国	2,193名	内女性 59%
シニア海外ボランティア	62か国	530名	内女性 22%
日系社会青年ボランティア	5か国	60名	内女性 73%
日系社会シニア・ボランティア	5か国	27名	内女性 67%

JICAボランティア事業の現状と新たな取組み

松島 正明氏（講演要旨）

り、このうち千葉県からは青年海外協力隊七十七名、シニア海外ボランティア十八名が派遣されている。

派遣者累計約四万三千人の内訳は青年海外協力隊三万八千四百四十一名、シニア海外ボランティア四千八百七十四名であり、派遣者の平均年齢は青年海外協力隊二十八歳、シニア海外ボランティア五十九歳。

青年海外協力隊の派遣者内訳については、女性が約六割を占めているが、概して女性が語学能力に長けていることや異文化適応能力も高いことが一因と思われる。

青年海外協力隊の職種別（分野別）派遣者割合は、①教育文化 ②農林水産 ③保健衛生の順となっており、シニア海外ボランティアについては、①教育文化 ②保守操作 ③農林水産の順。

派遣地域は青年海外協力隊では①アフリカ（四十割）②アジア（二十七割）③中南米（十七割）④大洋州（十割）⑤中近東（八割）で、シニア海外ボランティアは①中南米（三十七割）②アジア（三十五割）③大洋州（十三割）④中近東（八割）⑤アフリカ（七割）である。

制度上は青年海外協力隊（二十〜三十九歳）とシニア海外ボランティア（四十〜六十九歳）に分かれているが、派遣前訓練では青年海外協力隊・シニア海外ボランティア合同訓練を行っており、青年海外協力隊はシニア海外ボランティアから各分野に係る専門的知見・経験を学び、シニア海外ボランティアは青年海外協力隊から語学やコミュニケーション能力向上に資するサポートを得られる等の効果が表れている。

また、派遣地において青年海外協力隊・シニア海外ボランティアが其々の長所を生かしつつ、積極的に協調しながら活動する事例が増えており、先日ネパール、ブータンへ出張した際も、現地の小学校において小学校教諭、幼児教育の青年海外協力隊隊員が日本国内で豊富な現場経験を有するシニア海外ボランティアの支援を得ながら授業を実施しており、今後も同様の事例が増えていくことを期待している。

取り組むべき課題

行政刷新会議での指摘や、JICA内で独自に実施した「ボランティア事業のあり方検討委員会」等の結果を踏まえ、現在JICAは主として次の三点に取り組んでいる。

- (一) 派遣規模、支援体制等見直しや募集・広報、説明会、選考等の経費節減
- (二) ボランティア応募者数の減少傾向に対する対応
- (三) 「グローバル人材の育成」ニーズへの対応

(二) については、今年の春募集における説明会来場者は、青年海外協力隊が約七千名、シニア海外ボランティアが約三千名となり、一昨年（平成二十二年）度春）対比其々約十三割、十一割の減となった。実際の応募者数については現在集計中であるが、青年海外協力隊は約千五百名、シニア海外ボランティアは約六百名の見込みであり、特に青年海外協力隊の減少傾向が続いている。シニア海外ボランティアについては、顕著な増加傾向はみられないものの、繰り返し参加される方が多いため、応募状況は比較的堅調。

応募者数の減少要因は少子高齢化や青年人口の減少及び内向き志向などが考えられるが、JICAとしては事業実施に係る経費削減努力を行いながら、応募者増につながるような効果的な広報・情報発信を行っていく所存。

(三) については説明すれば、事業の魅力を高めるための努力も重要であり、昨今産学界で話題となっている「グローバル人材の育成」に可能な限り貢献するため、特に中小企業が青年海外協力隊事業を活用できるように「民間連携ボランティア制度」を今年度より立ち上げた。本制度については、平成二十四年度約五十億円の予算を充当しており、年間約五十名を派遣予定。応募者数の増加に関しては、JICAボランティア経験者のご理解、ご支援も不可欠である。

ため、千葉県JICAシニアボランティアの会をはじめ、JICAボランティア経験者の皆様による一層のご支援、ご協力をお願いしたい。

制度の見直しと新しい取組み

① 案件審査体制の強化

開発途上国では相手側が求めることと派遣ボランティアの能力等の間に時としてミスマッチが起こりやすいが、案件形成時の十分な背景調査の実施、相手国関係機関との関係強化、本部での案件審査体制強化など必要対策を実施中。

② 募集経費の節減

募集説明会会場の見直し、二次試験受験者に対する支給旅費を削減済であり、シニア海外ボランティアに関しては、本年秋募集から二次試験は原則地元のセンターで行う予定。千葉県については、昨年から支給旅費はなくなっており、試験会場は東京で変更なし。

③ 派遣前訓練の見直し

青年海外協力隊・シニア海外ボランティア合同訓練は当面継続するが、訓練期間についてはボランティアに対するこれまでのアンケート調査結果を踏まえ、シニア海外ボランティアの訓練期間を短縮し、青年海外協力隊の訓練期間を延長する方針で検討を行っている。

なお、シニア海外ボランティアに係る受験語学は平成二十四年度秋募集から、原則業務での使用言語とする予定。

④ 帰国後支援と社会還元促進
特に青年海外協力隊の就職支援を強化するため、地方自治体、大学、民間企業との連携を図っている。

また訓練プログラム（研修内容）についても、実践力向上に資するプログラムを増やすなど、質的向上を図っている。

これまで約二十か所の都道府県で地方公務員や教員採用に際する優遇制度（一部試験の免除など）があり、約十か所の大学・大学院で協力隊経験者に対する単位付与制度があるため、係る制度をより広い地域に拡大するよう、各地方自治体等に働きかけを行っているところ。

⑤ 新しい取組事例

我が国の財政状況は依然として厳しい状況にある一方、BRICS等をはじめとする新興国の台頭を受けた世界での競争力向上のために「グローバル人材の育成」が産業界で話題となっている。

我が国政府は中小企業支援を重視した政策を打ち出し、JICAとしても外務省、経産省、JETRO等と協調しながら必要な取組を進めており、ボランティア事業においても特に将来を担う世代の人材育成の観点から新しい取組を開始している。

これまでも現職参加制度による民間企業からのボランティア派遣実績はあるが、大企業と比較して人材の確保・育成が困難な中小企業からの参加を促進するため、平成二十四年度からの新しい取組として、「民間連携

ボランティア制度」を新設した。同制度は企業から推薦される人材をJICAの既存選考方法により選考の上、派遣地域・国、派遣期間等について企業側のニーズに柔軟に対応する設計としており、今年度は約五十名の派遣を予定している。

本制度の試行的取組として、サントリー、マンダムから各一名をベトナムとカンボジアに派遣であり、今後制度設計の見直しなどを行いながら、より使いやすい制度としていく予定。

⑥ 他国のドナー、国際機関との連携

韓国KOICA、シンガポールのSIF等他ドナーや国際機関等とは定期的にボランティア事業に係る協議を行っており、ベトナム、バングラデシュにおける障害者支援や環境教育の分野で、ボランティアの相互派遣による連携も行っている。

JICAでは、本年四月に緒方貞子理事長が勇退、田中明彦新理事長になった。田中新理事長の方針としては、緒方前理事長の方針を踏襲しつつ、「日本も元気にする支援」を行うことを表明されており、ボランティア事業についても、現在行っている制度の見直しや新しい取組などを通じて、より幅広い国民層から理解と支援を得られるよう努力していく所存であり、引き続き皆様の温かいご支援を頂きたい。

（文責 編集担当）

平成二十四年度通常総会を開催

五月十九日午後二時より浦安市国際センターにて通常総会が開催されました。来賓には写真の四氏を迎えました。



JICA青年海外協力隊
審議役 松島正明氏



千葉県国際課副主査
宮崎順紀氏

山本会長、書記長、白鳥貞夫、加藤哲男、両氏を議長団に選出後、次の六議案が上程され、それぞれが原案どおり可決されました。

「平成二十三年活動報告」

「同 会計報告」

「同 会計監査報告」

山本会長挨拶

会員の皆様、今日は当会の通常総会にご出席ありがとうございます。

当会はこの一年間、会員の皆様のご支援

を得て、着実に成果を上げることが出来ました。



この場を借りてお礼申し上げます。

「平成二十四年度活動計画案」
「同 予算案」
「同 役員選出」
平成二十四年度役員人事では、新役員として



JOCV千葉会々長
浜田眞一氏



浦安市国際センター長
藤松理子氏

は、新役員として加藤哲男、白鳥貞夫、両氏を迎え、黒田昭太郎、後藤優、両氏の勇退と、再任役員として及川淳一、大西輝明、酒井國彦、津田正臣、羽田亨、山本茂徳、横田勝徳の各氏の人事が承認されました。

す。

例年通り、規約に則り平成二十三年年度の運営結果をご報告し、引き続き平成二十四年度の運営方針案についてご審議を頂きたいと考えております。よろしくお願ひします。

当会は平成十五年七月に設立され、そろそろ満九歳となります。会の九歳は、成長期から成熟期に入る頃ではないでしょうか。会員のご協力も

二十三年年度の報告事項において、年次総会と定例会公開講演会、十一、十二回の帰国報告会、国際理解（開発）教育活動、春・秋募集、家族連絡会、各地イベント、年間十二回役員会、県庁表敬、JICAとの定例会、広報発行、会員動静が津田事務局長からありました。「広報およびホームページ」について、酒井幹事と白鳥ウエブマスターが、「国際理解（開発）教育」を横田幹事が現状と今後の方針詳細を報告しました。

二十三年年度会計については及川副会長から報告があり、黒田監査役から適正に処理されていると報告されました。

二十四年度の活動計画案は、基本的には前年度の諸活

あつて「会員間の親睦」、「JICAの事業への協力」、「国際理解教育の推進活動」という会の三つの目的は、うまく軌道に乗っていると考えております。

引続き「無理をせず」、「楽しく」、「しかし「内容豊富な」活動を進めて行きたいと思ひます。平成二十四年度の一年間をよろしくお願ひしてご挨拶といたします。



左より再派遣帰国者 田中忠昭、渡辺 章 両氏、
新会員 浦木 仁、柴崎静江、鈴木伸一、渡邊要吉の各氏

動の継続を柱とし、新たに麗澤大学への連携授業や柏市市立小学校訪問授業の拡大を図るなどという意欲的な計画が示され、予算案、人事案と共に全会一致で承認されました。

引き続き津田事務局長より期中の会員異動が報告され、本日出席した新会員の浦木 仁、柴崎静江、鈴木伸一、渡辺要吉の各氏と再派遣帰国者の田中忠昭、渡辺 章 両氏の自己紹介がありました。また、後藤 優、黒田昭太郎両氏の役員退任、上田義晴氏の顧問退任の挨拶がありました。

後藤副会長の閉会宣言で、二十四年度総会が滞りなく終了しました。

第十三回帰国報告会開催

梅雨も明けた七月二十一日（土）、午後一時半から約三時間に亘って第十三回帰国報告会が当会とJICA地球ひろばの共催、千葉県および千葉市の後援で千葉市国際交流プラザにおいて開催されました。

当日は来賓として千葉県国際課主幹兼国際交流協力室長西織哲大氏、青年海外協力協会原 浩治氏、青年海外協力隊千葉OB会 浜田眞一氏、千葉県海外協力隊を育てる会 福瀧健一氏のご出席がありました。参加者は、一般聴講者を含め約六十名でした。

JICA千葉デスク田村美由紀氏の司会で始まり、JICA地球ひろば所長 貝原孝雄氏のメッセージと当会会長の挨拶のあと四名の帰国者が順次、報告を行いました。

ベトナムの裾野産業振興

施井仁祥氏

ベトナムに進出した海外メーカーに部品やサービスを提供する裾野産業の強化を任務とするチーム活動に参画、個々の企業に対する経営支援をしたが、根本的な改善を実行して事業が拡大したケースがある一方、経営者の理解・協力が得られず中断したケースなど、地域的なビジネスの

素地の差異に左右される面もあった。

英語を理解できるベトナム人が極めて少なく、指導をより有効にするにはベトナム語の理解が必要であった。

企業支援に一定の成果を示す事は出来たが、それ以上に自分がベトナムで学んだ方が多かった。

トンガ王国でのシニアボランティア活動

吉原久雄氏

農業省事務次官のアドバイザーとして農業政策、特に輸出農産物の開発振興を農業省高官と複数の私企業に助言をした。

「農業は楽しいものだ」と感じるよう「ジャイアントカボチャコンテスト」を実施したり、「四角いスイカの栽培」を試みたが簡単には進まなかった。カボチャ、サトイモ、スイカ、バナナ、コーヒー等の輸出会社には農業経営とマーケティングを指導した。

東日本大震災の後、トンガ国王が日本大使館で弔意を示された。トンガ赤十字協会の街頭募金に多額の義援金が集まり、トンガ首相からも義援金が贈られた。これまで日本が行った支援活動が生きてい

る事を実感し感銘を受けた。

エルサルバドルにおけるシニアボランティア活動

渡邊要吉氏

派遣は二度目で、今回は物流の新拠点となるラ・ウニオン港建設プロジェクトの支援、今回は東部地区国家中小企業委員会にて品質管理の指導を行った。

新興国がグローバルビジネスを行う上でISO9001の取得が重要なカギとなるが、エルサルバドル企業の取得実績は極めて少ない。輸出商品として藍染、黒い陶器や竜舌蘭の繊維を利用した麻袋などを選んで指導した。

一九九二年の内戦収束後も社会不安が残り、麻薬組織・犯罪組織撲滅も容易ではないが、今後も日本の支援への期待は大きい様である。

ケニアの健康情報

鈴木伸一氏

ケニア公衆衛生省の健康情報システム部門で健康情報のデータベース構築とコンピュータリテラシー向上の支援を行った。

赴任直後にプロジェクト開始、二十二ヵ月後の二〇一二年二月に運用開始し、Webベースで疾病罹患患者数等の健康情報データベースを全国集計する体制が出来た。

依然厳しい状況にあり、HIV/AIDS、マラリア、皮膚病、結核などの疾病に加え、スラムでの暴力行為や交通事故による死傷も多発している。

健康情報データベースの質的向上がケニアの社会問題解決につながる事を期待したい。



報告者（左から）施井、吉原、渡邊、鈴木の各氏

報告者は活動内容のほかに多数のスライドを用いて現地の風土や人々の生活ぶりも紹介、報告に関する多くの質問も飛び交い、会場の全員が興味深く聴講しました。

及川会副会長の挨拶で締めくくり、その後、二十名参加の懇親会が「美弥和」にて開催されました。

出前講座

柏市立大津ヶ丘第二小学校

同校体育館にて、六月四日（月）十時三十五分～十一時二十分、四年生七十六名を対象に白鳥貞夫会員が「幸福の国バヌアツを知ろう」と題して訪問授業を行いました。

地理、人、言葉に関してクイズ形式で児童の興味を引きつけ、また、小さな村での暮らしぶり、特に、物の少ない事や水の大切さを写真で紹介しました。

お金や物はないけれど、助け合って、環境を傷めない生活を送り、世界一幸福な国とされている事で締めくくりました。

児童からは、言葉、文字、伝統、スポーツに関する質問がありました。



授業中の白鳥会員

渡辺校長が出席され、当会から羽田 亨会員が立ち会いました。

パートナーとうかつまなび屋

S M B C 日興証券柏支店四階ホールにて六月十二日（火）十時～十二時 N P O

パートナーとうかつまなび屋まなび屋メンバー三十五名を対象に武藤達雄会員が「イン

力の末裔の国ペルーに暮らし」と題して講座を行いました。ペルーに関する地理、民族、気候等の基礎知識、近世の歴史、任地のアレキバの状況などが説明され、同地の職業訓練校でのボランティア活動の詳細が報告されました。

後半は、ビデオ映像によるアレキバの風景、生活、食べ物等の紹介が有り、会員の興味を引いていました。講演後は日系人、音楽、スペイン語



講演中の武藤会員

会話、国民性、治安についてなどの多岐にわたる質問が寄せられ、関心の高さが感じられました。立ち合いは羽田 亨会員でした。

放送大学サークル中南米研究会

同大学の千葉学習センター講義室にて、六月十二日（火）十時十五分より午前

中、「中南米研究会」主催の講座で同会員十九名を対象に弓 貞子会員による「エクアドルでのボランティア活動」看護学生、教職員、コミュニケーションの人々と共に」と題する講座を行いました。

対象者が中南米研究会会員と言う事でエクアドルの地理、気候、国民性、歴史、食生活等を看護師としての人間性を込めた視点から克明に説明されました。

明されました。



講演中の 弓 会員

赴任先のポリバル国立大学健康学部・看護学課での指導や、アンデス高地の極貧のコミュニティへの健康・生活改善プロジェクトの活動を主催し、先生方や学生の応援を借りて演習や講義をしました。そして、当国の医療事情の貧しさの改善の為に J I C A の協力を交えて物品の贈与や衛生文化の伝道師としての活動をされました。

パソコン教室や手芸教室、小学校の薬品棚の整理・補充、応急処置と救急箱、乳幼児のケア、妊産婦の生活指導などの書ききれないほどの活動を報告されました。

仕事ばかりではなく、女性らしく料理の講座やカーニバルの参加による楽しい時間も過ごされたようです。立ち合いは酒井國彦会員でした。

麗澤大学連携授業（前期）

麗澤大学成瀬教室連携授業が新たに企画され、当会より前期三名、後期二名の講師を派遣する事になりました。

前期分第一回は六月二十日（水）外国語学部国際交流・国際協力専攻一年五十八名を対象に、北垣勝之会員による「中東ヨルダンへの国際協力」（J I C A シニア海外ボランティアの体験事例から）の授業が行われました。

ヨルダンの治世、宗教、言



講義中の北垣会員

語上のアイデンティティ、赴任地アカバの地理と隣国関係。観光資源、天然資源、肥料生産を通じての日本との関係。J I C A 職業訓練強化プロジェクト、日本／ヨルダン技術協力プロジェクト。V T C（職業訓練校）におけるミッションとして、労働力向上、職業別訓練、安全衛生の取り組み。などを講演されました。

第二回目の授業は六月二十七日（水）、中村時夫会員が「大洋州の島々と素敵なパラオの人々」と題する講義を行いました。事前に五項目の質問を設定した学習プリントを配布し、授業の中で回答を評価するという進行で、学習効果を狙われました。更に講師のユーモアに富んだ話術、タイミングの良い質疑応答で、良い講義環境が持続出来ました。



講義中の須郷会員

前期の第三回目は、七月十一日(水)同様に、一学年五十八名を対象に須郷隆雄会員による「赤道の国エクアドル」と題した講座を行いました。

導入として、退職後のシニアボランティア活動で赴任したアルゼンチン、ブータン、エクアドルの経験に基づく、海外から見た日本、本当の幸福についての感想を述べ若者の海外経験の必要性を説きました。



講義中の中村会員

本題では、エクアドルの地理的特徴や任地のチンボラソ県審議会乳製品組合での貧困削減プログラムの取り組みを紹介しました。野口英世との関係や、ガラパゴスと世界遺産アマゾン源流映像は学生の興味を引き授業の効果を高めました。

三回の授業の立ち合いは羽田亨会員でした。なお後期の授業は十一月二十一日(水)と二十八日(水)の二回を予定しております。

柏市立 柏の葉小学校

六月二十七日(水)午前十時四十分〜十一時二十五分、柏の葉小学校国際交流室において六年生十六名、五年生二十四名計四十名を対象に武藤達雄講師が「インカ末裔の国ペルー」と題する訪問授業を行いました。

自己紹介、ペルーの位置・



授業中の武藤会員

人口、民族・気候等、人々のくらしと生活、学校制度、風俗と習慣、食物、生物、などについて備え付けの大型テレビを通じて紹介されました。

クイズ方式で問いかけるなど、生徒が理解しやすいように工夫された授業でした。生徒の質問には珍しい食べ物(ザリガニ、モルモットなど)に関するもの、学校制度、指導科目、安全など多数ありました。

佐藤校長、伊東教務主任が出席され、JICA千葉デスク田村美由紀氏が参観、立ち合いは黒田昭太郎会員でした。

市原市五井公民館

七月十九日(木)午前、五井公民館において河田眞智子会員が「ネパールにおける幼児教育」の演題で出前講座をおこないました。



講演中の河田会員

参加者九十名(男性三十三名、女性五十七名)と大勢の受講者を迎え、一時間半に及ぶ熱のこもった講演でした。

シニアボランティアを志した動機や随伴された夫や家族との関わりなど、微妙な課題を飾りなく語り、受講者が熱心に聞き入りました。

ネパールの現状を四十二枚の写真や新聞記事等から分りやすく語られました。日本と全く異なる幼児教育の現状や講師の任務の成果のいくつかを紹介されて、受講者の感動を集めていました。

これは、昨年同公民館で行った同テーマの出前講座が好評で、同公民館長から再度の講演を依頼されたものでした。

立ち合いは横田勝徳会員でした。

会員 寄稿

エクアドルの看護教育に参加する機会を得て

弓 貞子 エクアドル
看護師 浦安市

JICAのシニア海外ボランティアに行けたのは、職を辞してから九十五歳の姑の介護を約十か月、その終焉間もない時でした。

いつか行きたいと思っていたJICAのボランティア活



釜石に於いて筆者近影



産科病棟で出産一日目の母子と学生

動に運よく、タイミング良く選ばれたのは幸せ者でした。充分なスペイン語の語学力のない私が出来る事は限られた事ばかりでしたが、要請された看護教育全般の見直し・アドバイスの意味を幅広く捉えて、出来ることから入っていきました。

学内の授業は、担当者と一緒にしながら、分担できる箇所、特に看護技術演習は、実物を使って実際にやり方など

を示せるのと、予めパワーポイントで注意点を示せる環境があったので、担当できた内容でした。学生の学習態度は熱心でしたが、自習室での演習には備品や看護用品が不足する事ばかりで、理想と現実のどのレベルに合わせた指導をするべきか担当者としてしばしば議論しました。学部内の校舎には、パソコンやモニターなど高価な設備が完備されていても、看護師教育に欠かせない実習室の中は旧式または使い古しが多いのです。

実習室の授業では日常的に病院に物を借りに行き、学生に買わせて不自由な中で行っていること自体問題意識を感じますが、教員の中にはそうと思わない人もいて（或いは実現性がないと諦めている？）話し合っただけで予算化して、教育設備を充実させるというコンセンサスを得る事の難しさを感じました。しかし、後で、JICAの「世界の笑顔のために」のプログラムで車椅子・歩行器などの他多くの寄付による看護用品が、日本から搬入されるとみんな大喜びだったのです。タダならばいいけれど国のお金を使うには、大学の中での力関係がいろんな場で影響しているらしいお国事情にぶつかった思いでした。

実習先の病院や保健所でも物不足は同じで、それでも学



コミュニティの小学校で子供と村民



コミュニティの健康教育活動

刀打ちできませんでした。帰国後に聞いた話では、これまでなかった国家試験の実施やカリキュラムの改訂など、看護教育改革が今動き始めているようです。

活動で印象深かったのはアデス高地の極貧の村人たちと小学生を対象に、健康教育を主にプロジェクトを組んで、大学の先生方や学生の応援も借りて一通りの講義や演習ができて、皆さんに喜んで貰えたことでした。

数多くの楽しかった事の中でダントツだったのは、任地のカーニバルで踊れたことです。二年目の学部のテーマは「ニッポン」でした。大使館から借用したハッピーと大和撫子びつたりの浴衣姿が隊列になって「川の流れるように」を踊り抜いたのです。アデスの山々にひばりさんの歌がこだまして、気分は爽快を通り越していました。主たる活動の成果は？ですが、町の人達に日本人の存在はかなり理解して貰ったのが自慢できることで、有意義な二年間だったと思っています。

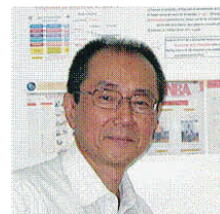
メキシコ、ケレタロ工科大学 での熱い100週間

浦木 仁 メキシコ
生産性管理 市原市

初めての海外ボランティア活動は、六十歳の誕生（二〇



大学研究所内改善活動、先生方への説明会



○九年七月）に駒ヶ根のJICA A訓練場に入所し、定年退職辞令を郵送して

もらうことから始まりました。三十五年間の「物づくり」現場の改善経験が、生産性管理の指導を通してどれだけ任国に通用し、貢献できるか？というテーマで先進国といえるメキシコのケレタロ工科大学に赴任しました。ケレタロ市は、メキシコシティーからバスで北西に三時間ほどの中規模の工業都市です。気候は穏やかで、旧市街地と水道橋の世界遺産がある美しく住み良い町です。当大学は創立四十四年を誇る公立大学で、生徒数は六千人以上、私は最も伝統のある工業技術学部

所属し、近郊の中小零細企業の改善を目的とするプロジェクトで、カウンターパートの先生方六人に日本式生産管理の実践技術を伝承しながら共に企業改善指導を行う活動を始めました。

しかし、当初は大学も始めてのボランティア改善活動の、具体的な方向性を見出すことが出来ませんでした。そこでまずは大学にあるプラスチック成形機から改善を始める事にしました。同時に、あるべき姿を知る為に先生達や学生達と近隣の日系企業を見学に行きました。異国で改めて日本人の絆や情を強く感じました。また、私はJICAの先輩方の企業診断に半年間同行し、ケレタロ周辺の企業訪問も行い、メキシコ企業の実状が解って来ました。そして、全員合意で選択したモデル零細企業の指導として企業講習会を進めながら、日本式生産管理の実践技術資料を構築していき、百三十ページに

このような約一年に渡る活動からグループに自信が生まれ、大学の特徴を生かして学生を工場に配置し、先生が知識的な側面、私が経験実践的な側面から支援する形が出来ました。

そして中企業二社も加わり本格的な指導活動が軌道に乗



中企業改善指導

りました。この他に私は並行してメキシコシティの大・中企業も三社診断指導し、これらの相乗効果も大きかったと考えています。

そして指導した小企業は一年間でISO取得に意欲を示し、大企業はアメリカ本社から聴講に来る等、今後の進展が楽しみな状況になりました。しかし、メキシコの大学や企業の生産技術の知識レベルは非常に高いのに、企業の製造現場にあまり活かされていないと感じます。よって今後の支援は技術面ばかりではなく、教育的、社会制度的、文化的な問題も考慮すべき必要があると感じました。生活面でも大学の先生達に対応して頂き、二回の誕生会を開いてもらい、結婚式に招待を受けました。

仕事も含め充実した生活が
おくれました。ボランティア
の醍醐味も実感しましたの
で、現在、次の挑戦に向けて
技術レベルを上げるべく研鑽
中です。

パラオと豚

高橋 吉男 パラオ
家畜飼育 船橋市



私は、ほ
ぼ四十年前
に青年海外
協力隊員と
してアフリ
カのタンザ
ニアで二年

間仕事をしました。タンザニアでの経験は強烈で帰国してからもアフリカを始めとした途上国で仕事をする夢を持ち続けていました。

子供たちを社会に送り出し、自分の仕事にも一応の終止符を打ち、改めてJICA



PCCの教室

ラオでは文化的に「豚」が欠かせないので。特にお葬式では豚を屠って参列者にふるまうことになっています。その他の行事のときにも、屠った豚肉をふるまいます。豚肉であれば良いのではあります。丸焼きかぶつ切りにして煮ます。



元気な子豚たちの養豚場

シニア海外ボランティアに応募して今回はパラオに行くことができました。
私の仕事はパラオの最高学府であるパラオ・コミュニティ・カレッジ(PCC)の農業コースで「畜産」と「養豚、養鶏」を教えることでした。学生はパラオ人だけでなく、お隣のミクロネシア連邦から来ている学生が二、三割います。
パラオの人口は約二万人、広さは五百平方キロ弱で屋久島と同じ位の小さな島国です。パラオで養豚？どんな関係なのかと思われるでしょう。パ

レストランのほとんどと一般家庭の相当数の残飯が養豚に利用されていることは特筆しておきたいことです。

日本は第一次大戦後国際連盟の委任統治という形で三十年にわたりパラオを統治していました。パラオから見ると日本との係わりは大変大きなものです。「ベントー」、「アブナイ」、「チチバンド」、「センセイ」、「ダイジョーブ」これらは全部パラオ語です。日本統治時代にパラオ語には無かった単語に日本語が用いられたのでしよう。現在、日本語を語源とするパラオ単語は八百語を越えます。若いパラオ人は日本語とかわらないで使っています。「頭錆びてる」は想像がつくと思いますが「ツカレナオース」になると驚くことにビールを飲むもうという意味です。

PCCで困った事は、自分の英会話力のなさでした。しかし工夫してやっていたうちに学生たちが勉強の仕方を知らないことに気がつきました。その対策として、まず教科書の重要な部分を書き出してプリントして配ってみました。しかし、残念ながらそれらのプリントはバッグに直行、ほとんどの学生はそのままで眼を通すこともなく。「これはダメだ」と、その次に考えたのは宿題を出すことでした。配るプリントに空欄を作



自宅で学生達と

りその空欄を埋める事を宿題にしたのです。答えは教科書に載っていますから、宿題をやるためには教科書を読むことになりす。宿題は真面目にやるのです、これは結構効果的でした。もう一つは試験を頻繁にすることで勉強せざるを得ないようにすること、そして講義の内容を興味のあるものにするのでした。教えるというのは大変なことでしたが、学生が懐いてくれたので、素晴らしい体験ができました。また、PCCは地域のコミュニティへのサービスにも心がけていました。
私は豚の獣医が専門ですの後半は講義の合間に地域の養豚家よりの依頼で豚の診療にも携わりました。
最後になりましたが、自然がいっぱいの美しいパラオの海も何よりの思い出です。

会員 便り

七十一歳からの挑戦

(テレビ東京で紹介)

武藤 達雄

《いきさつ》

ペルーから帰国し、もう少し地元を足付けた何かが出来ないかと模索していたら、偶々、地元にある東大柏キャンパスの一般公開講座(昨年十月に開催)で、シニアの“就労セミナー”の案内を見つけ、聴講したのがそもそもの始まりです。

本セミナーは東大(柏キャンパス)高齢者社会総合研究機構主催、柏市・UR都市機構共催で、種々の内容で、既に六回開催されました。

就労(就職でない)も塾から子育て支援、農業、生活支援等の分野があり、少しずつ具体的な就労が始まっています。聴講シニアの平均年齢が六十八歳と言うことで、比較

的年齢の高い私がTV出演のモデルに選ばれたようです。

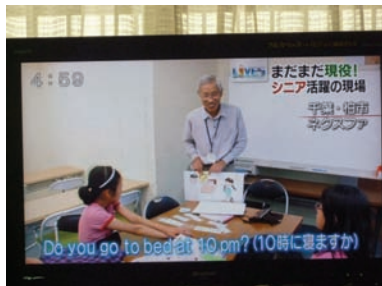
柏市は、企業が取り上げるにはあまりメリットがない労働をWork Share(好きな時に、好きに働らく)することで、医療費等の削減と元氣なシニアの増加を狙っています。東大の高齢社会総合研究機構にとっては、シニアが就労で元氣になり脳や身体上の改善が見られるか等の研究の一環でもあります、我々がそのデータソースとなっております。

《感想》

毎週、月曜日の夕方、約二時間、塾で小学生相手に英対話(英会話でない)を行っておりありますが、お金を貰ってしまふと、あまり無責任なことも出来ないなあーと言った所で、これも塾の作戦かもしれません。

丁度、孫と同じ年齢の他人の子供(小学三・五年)と接することの難しさ、教えることの難しさが段々分かってきて、苦戦しています。でも、Routineとして何かを行っていることは、健康上、精神的にも良いようです。

写真は「七十一歳で塾講師に初挑戦!シニアの新しい働き方」として、テ



レビ東京で紹介された映像です。

関係動画は、<http://www.tv-tokyo.co.jp/my/newsanswer/lives/> (ページ閲覧下さい)。

シニア海外ボランティア

(SV) 成果の社会還元

阿部 清司



千葉大学教育学部との連携授業

途上国援助に関心のある学生が集まり、少人数ではあったが大変活発。その様子を写真が示す。私の手前に写る学生は特に熱心である。

事前の宿題(十八の大質問に答える課題)を熱心な学生はよく果たしていた。Class Discussionで私が重視するのは「学生の目線で見ること」であり、これは日本でもアル



千葉大学での連携授業 (2010年10月)

ゼンチンでも同じである。

遠隔教育や国際教育開発がご専門の教育学部吉田雅巳先生が当会との連携に積極的であることは大変良いことである。なお千葉大学には隣に法経学部がある。私は国際経済学を二十年以上留学生や日本人学生にその法経学部で教えていたが、そこには途上国援助の体制は未整備。当会が重視する国際理解教育(多文化共生)は「現地の人々の目線で見ること」を指す。「日本人の目線で見ることとは止める」という謙虚さは途上国援助で最重要。草の根途上国支援で重要なのは三つの「あ」、あなごらず、あきらめず、あせらず。

出版による社会還元

①『クロスロード』(Vol.4 No.54)二〇〇八年八月号は、シニア海外ボランティア体験談リレー六十八「学生の目線で見ること」を直す、日本政治経済研究(アルゼンチン)



アルゼンチン ラプラタ大学での授業

ン)阿部清司)を掲載。これは私が執筆したものではない。インタビューをもとにJICA編集室が執筆した記事。現地の人の目線を重視するJICAの見方は私と同じ。写真はアルゼンチン・ラプラタ大学大学院のClass Discussion in Spanishを示す。写真にあるように学生との真の相互理解を私は重視。現地の人々の目線に立つゼミを今も心がける。

また任国事情講義「アルゼンチン事情説明」を二〇〇八年夏に長野県駒ヶ根青年海外協力隊訓練所で行った。

②『相互依存のグローバル経済学』という本を明石書店から二〇〇八年十二月に出版。SV体験、人間中心の経済開発、異文化理解、現地主義などを含む新共著。

③「アルゼンチン社会の悪循環・ビバサ・クリオーリャ(Viveza Criolla)と国の不統一」を『千葉大学経済研究』第二十五巻一、二号(二〇一〇年六月、九月)。SV活動中に得た情報や調査をまとめた報告。千葉大学法経学部名誉教授として執筆。JICA事務所や大使館などにも配布済み。なお、この抜き刷りをご希望の方には郵送します。

④「アルゼンチン経済の破綻と活性化:大来レポートの再評価」、『世界経済評論』第五十一巻六号(二〇〇七年六月)。

ホームページによる社会還元

現地でのSV活動の情報や教訓をインターネットで公開することはハイテク時代にふさわしい「SV成果社会還元」の方法ではなからうか。そう思っている私は在任中からホームページ「アルゼンチンの印象」の充実に努めてきた（このタイトルで検索すれば誰でも見れます）。その中の「厳しい現実」は現地の本当の内情を知るのに有用（好評）。TBSはホームページの中の「現地で活躍する日系移民」を見て私に取材協力を求めてきた。喜んで私はTBSに協力した。

在日南米人への個人的支援

個人的な草の根途上国支援は続く。日本に住む南米人（ペルー人）の生き方支援を私は今も行う。

現地会員便り

メラネシア・フィジー便り

大久保 邦衛

昨年三月に南太平洋のメラネシア諸国の一つフィジー国に赴任して早くも一年半が過ぎました。

課題は「水産物の流通改善」ですが、具体的には「鮮度と衛生管理」、「流通の機能と設備」を原理と実務例から紹介する事から取り組んで



大久保会員とマネージャー



高温の炎天下での魚の販売

います。キーワードは「漁獲物の低温度管理、そのための容器と氷の活用」です。

現行の常温下三十度前後のオーブンスペースで、埃やハエが飛びかう中での販売、保管、輸送状態を断熱容器と氷を使用した低温コントロール下での管理方法に変えていくとしています。

活動期間も残り半年になりましたので関連資料は纏める方向で整理しています。出来るだけイラストや写真を多用

した資料にして配属先に伝えて行きたいと考えています。



野菜売り場にはテントあり

資料写真へのコメントの書き込みにはPCの画像編集技術が要求され、私には都度都度学習しながらの作業となっています。

任国の事情ですが、昨年暮れにカナダの世論調査会社让世界五十八か国の幸福度に関する調査を行い、フィジーが幸福度で世界第一位の国になりました。

確かに街で見かける人々も、明るくあまり緊張感が見られず余裕がある様に見える。子供達も無邪気で幸せそうです。

私の配属先の人々からも彼等の心の豊かさを感じることがあります。毎日の出勤時や退庁時の気持ちのいい挨拶のやり取りや、通常の勤務でも彼等は親切で友好的です。

時には何がこの国の人々をそうさせるのか私なりに考え

る事があります。

①年間を通して三十度前後の暖かく快適な気候と豊富な農作物と果物

②社会の基本単位が村で、そこでの共有助け合いの生活習慣

③英国植民地時代の影響（旧宗主国に親しみを持つ人が多い）

等ではないかと思っています。

その中でも独立後も旧宗主国を慕い続けるのは旧宗主国英国に対する魅力のせいでしょうか、当時の英国の文化や政策が多くのフィジーの人々に魅力的だったのかなと思います。六月十一日は英国女王の誕生日ですが今でもフィジーでは休日にして祝っています。

フィジーに滞在して物質面や技術面では日本は進んでいると思いますが、精神面ではフィジー人を見習うべきと思う事もあります。

①生活の中の祈りや謙虚で穏やかで感謝を忘れない生活態度

②挨拶を大切にする習慣と微笑ましい人間関係

英国が今もフィジーの人々から慕われているように、日本のSVとして世界の人々が日本に魅力を感じ、慕ってくれる国になるように、誠実に明るく、親切と努力と忍耐を基本とした活動をして行きたいと思っています。

JICA関連ニュース

協力隊まつり

第五回協力隊まつりが四月二十一日～二十二日に渋谷区広尾のJICA地球ひろばで行われ、当会もブースを設け、出展参加しました。



会場の黒田、山本、佐藤の各会員

二〇〇五年に青年海外協力隊発足四十周年記念ボランティアフェスタが渋谷のNHK周辺で開催された事をきっかけに、青年海外協力協会の主催行事として二〇〇七年から二〇一一年に亘り開催され、当会も連続して参加しました。地球ひろば移転のため、今回が広尾での最後の協力隊まつりでした。

五年間はあっという間にすぎましたが、当会がお役に立ったことをよるこんでおります。

二十四年春募集説明会

○四月五日（木）アミューゼ柏プラザにて、JICAシニア海外ボランティア春募集説明会が開催されました。青年海外協力隊事務局アジア大洋州大貫課長の挨拶のあと、「世界も、自分も、変えるシゴト」と題した映画上映と、制度、応募説明がありました。

田中忠昭会員が参加したミニパネルトークに続いて、座談会形式での質疑を含めた懇談が行われました。よろず相談コーナーでは武藤達雄会員が相談者を務め、当会から羽田役員が立ち会いました。



パネリストと司会 よろず相談中の
武藤、羽田両会員

○四月二十四日（火）船橋市市民文化創造きららホールにて、JICAシニア海外ボランティア春募集説明会が行われました。

施井仁祥会員と高橋吉男会員によるパネルトークがあり、よろず相談員は柴崎静江会員が担当しました。参加者

は約六十名で盛会でした。当会から及川役員が立ち会いました。



説明会会場風景
よろず相談中の
柴崎会員

JICA留守家族連絡会

恒例の留守家族連絡会が九月一日（土）午後、中央区のホテルプラザ菜の花にて、JICA広尾センター主催、当会と青年海外協力隊千葉OB会の共催、千葉県海外協力隊を育てる会と社団法人協力隊を育てる会の後援で三時間に亘り行われました。

青年海外協力隊留守家族三十七名、シニア海外ボランティア留守家族三名が出席されました。

主催者を代表して橋口道代広尾センター次長がJICAボランティア事業の概要とボランティアに対する支援体制などを、中川進路相談カウンセラーがボランティアの帰国後の支援体制を説明、続いて青年海外協力隊千葉OB会浜

田会長と当会 及川副会長がそれぞれ事業紹介を行いました。

青年海外協力隊OBとシニア海外ボランティアOB各一名が現地での活動状況と生活環境についての説明を担当し、当会の渡邊要吉会員がエクスアドルでの赴任経験を述べました。

プログラム最後の地域別懇談会のテーブルには当会の鈴木伸一、渡辺章、渡邊要吉の各会員と及川副会長が参加しました。



渡邊会員の赴任経験談



地域別懇談会

会員動静

平成二十四年五月十八日現在
（敬称略）

会員現状
九十七名

会員異動
入会者 六名
退会者 八名

会員紹介
浦木 仁
（メキシコ）
生産管理
市原市

後藤 令子
（ヨルダン）
養護
千葉市

施井 仁祥
（ベトナム）
経営管理
船橋市

柴崎 静江
（ホンジュラス）
算数
船橋市

鈴木 伸一
（ケニア）
コンピュータ技術
市川市

高橋 吉男
（パラオ）
家畜飼育
船橋市

村田 淑子
（パラグアイ）
日本語教育
船橋市

渡辺 要吉
（エルサルバドル）
品質管理
船橋市

再派遣帰国者
大澤 トシエ
（シリア）
服飾デザイン
松戸市

高木 利公
（タイ）
コンピュータ技術
館山市

田中 忠昭
（ベトナム）
農産品加工販売促進
船橋市

寺島 得司
（エルサルバドル）
上下水道
八千代市

堀 甲子男
（チュニジア）
柔道
千葉市

武藤 達雄
（ペルー）
電子工学
柏市

吉原 久雄
（トンガ）
農業生産技術
印西市

渡辺 章
（ミクロネシア）
保健師
松戸市

退会者
在会中のご協力ありがとうございました。

片岡 工
坂本 真理

反畑 幸治
樋口 徹生

福岡 正弘
藤田 正三

山岸 隆

役員人事

五月十九日に開催された総会で平成二十四年度役員として次の諸氏が選出されました。

会長
山本 茂穂
千葉市

副会長
及川 淳一
船橋市

副会長
横田 勝徳
千葉市

事務局長
津田 正臣
千葉市

幹事
酒井 國彦
千葉市

幹事
羽田 亨
柏市

幹事
大西 輝明
浦安市

幹事
白鳥 貞夫
柏市

幹事
加藤 哲男
流山市

副会長
後藤 優
千葉市

会計監査
黒田 昭太郎
柏市

新SV千葉県庁表敬訪問

○三月十三日（火）午後、JICA地球ひろば市民参加協力促進課 遠山峰司課長の引率で、平成二十三年度第四次隊の青年海外協力隊員（JOCV）五名およびシニア海外ボランティア（SV）黒須英典



黒須英典会員（後方左より4人目）



JOCVとSVの皆さん（中央 高橋部長）

会員、小林貞夫、徳田稔夫の三名の方々が千葉県庁を表敬訪問し、千葉県総合企画部 高橋 渡部長の激励を受けられました。
当会からは津田事務局長が同席しました。

○六月十八日（月）午後、JICA地球ひろば地域連携課 益田愛奈氏の引率で二十四年



JOCVとSVの皆さん（中央 渡邊次長）

度第一次隊のJOCV十七名および、後藤令子会員を含むSV六名の方々が千葉県総合企画部 渡邊治巳次長の激励を受けられました。
当会からの同席者は津田事務局長でした。

平成二十四年度秋募集説明会のお知らせ

JICAシニア海外ボランティアおよび青年海外協力隊の秋募集説明会が左記の通り開催されます。

会場ではパネリストによる体験談発表や、よろず相談があります。

■九月二十九日（土曜日）

幕張会場（幕張メッセ国際会議場一〇三会議室）

会場一〇三会議室

・青年海外協力隊（海浜幕張駅徒歩五分）

・青年海外協力隊
十四時～十六時

■十月十六日（火曜日）

柏会場（京北ホール一階）

（柏駅東口徒歩一分）

・シニア海外ボランティア
十五時三十分～十七時三十分

・青年海外協力隊
十九時～二十一時

■十月二十三日（火曜日）

船橋会場（きららホール）

フェイスビル六階

（船橋駅徒歩二分）

・シニア海外ボランティア
十五時三十分～十七時三十分

・青年海外協力隊
十九時～二十一時

九月二十九日 幕張会場は「青年海外協力隊」のみです。各説明会への参加は会場に直接お越しください。

JICAボランティアに関心のある皆様をお待ちしております。

千葉県国際交流センター便り

「フェアトレードイベント千葉」の第一弾を四月二十一日と二十二日、第二弾を五月二十二日から二十四日、第三弾を五月二十六日、二十七日に開催しました。「フェアトレード」は直訳すると「公正な貿易」を意味します。消費者である私たちが、フェアトレード商品の背景やコンセプトを理解することで、環境問題や世界の貧困問題などに配慮した、持続可能なビジネスモデルを広げることが目的としています。



今回のイベントでは、千葉県内でフェアトレード商品を扱う団体や、大学生団体などが出展し、多くの方に立ち寄っていただきました。

JICAブースでは主に「食料」「教育・児童労働」をテーマにして展示を行ない、食料か

ら考える途上国と日本のつながりや、途上国の子どもたちの多くが大人同様の労働を強いられる現実と、私たちが消費者がフェアトレード商品を選択することが児童労働撲滅の一助になるということを知って頂きました。

（JICA千葉デスク 田村美由紀）

編集後記

千葉県のいじめホームページによると小学校から高等学校までの合計件数はここ数年約八千件で、ほぼ横這いで推移しております。

子供の成長とは、判断力や体力の向上であり、特に青少年教育とは人生の生きる希望と喜びを共に見つけることです。家庭と学校を含む社会が心の絆をもって教育に協力しあう事が重要です。

当会は国際理解教育を推進しておりますが、会員が培ってきた知識、経験、ノウハウを広く青少年教育のお役に立てたいと思います。

（酒井國彦）

ご意見、ちば出前講座のお問い合わせは下記にお願いします。

千葉県JICAシニアボランティアの会
(The Association of JICA Senior Volunteers in Chiba)
043-255-3810 (山本)
Shigeho_yamamoto
@yahoo.co.jp

千葉デスク国際協力推進員
043-297-0245 (田村)
jicadpd-desk-chibaken
@jica.go.jp